

「Sagami Vision 2035」

社会に貢献する「学びの場」として

—学校法人相模女子大学の ^{ミッション}使命・^{ポリシー}方針・^{ビジョン}展望

I 学園の歴史と使命(ミッション)

—女子教育の歴史と伝統を発展させ、誰もが生きやすい社会を創る

本学は、1900(明治 33)年、日本女学校という女子教育機関の創設に端を発し、その 9 年後には女子の最高学府となる帝国女子専門学校を設立、日本の女子高等教育の礎を築いてきました。その目的は、当時十分な教育を受ける機会のなかった女性たちに、男性と変わらないレベルの教育を提供し、それによって女性が社会のなかで活躍することで、わが国の健全な発展を期するところがありました。創設者・西澤之助が唱えた「高潔善美」「固き心をもって優しき行いをせよ」といういわゆる「建学の精神」は、社会の一員としての自覚と倫理を説いたもので、そこに男女の別は存在しませんが、時代がいまだ女性を十全な社会的存在と認めていなかったなか、女子教育の理念としてこれを掲げたことはきわめて先進的であったし、今も古びていないと考えます。

第二次世界大戦の戦禍と敗戦を経て、日本国憲法のもとわが国は男女平等の民主主義国家となりましたが、男女の様々な格差は法律や制度の変更で消え去るものではなく、今なお慣習や不文律として厳然と存在し、それが社会の健全な発展への阻害要因となっています。したがって、そうした男女格差の解消・克服は日本社会の未来のためには必須の課題であり、そのために今日でも「女性が力をつける」ことに特化した「学びの場」は重要な意味を持っています。

本学は、戦後都内から相模原へ移転し、広いキャンパスを生かして認定こども園から小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・大学院を含む)までを擁する総合学園として発展してきましたが、幼稚部・小学部および大学院は年齢的な特性から男女共学とし、中学部・高等部・大学は「女子校」として、それが「女子が自分の可能性を自覚し、その可能性を伸ばしていくための最善の環境」であると考え、継続してきました。私たちの目指す女子教育は、女性が男性と競い合って生きるためのものではなく、女性の発想や行動力を社会に提供することで、社会そのものを柔軟で誰もが生きやすい場に変えていくためのものです。それが創立以来の目標である「女性の活躍による社会の発展」につながり、それを現代に生かすことになることを確信しています。

II 学園の教育方針(ポリシー)

—社会の中で自分を生かせる人を育てるために、聞き合い、語り合い、学び合う

本学は幼稚部から大学・大学院までを擁する総合学園ですが、現代社会において特に重要となるのは、一人一人が生涯を通じて学び続け、成長を続けることであり、学校は一定の知識や技能を与えるだけにとどまらず、学び続けるための基礎(ベース)を作り上げる場でなけ

ればなりません。そのためには園児、児童、生徒、学生たちが「学び」による自分の成長を感じ、「学ぶ楽しさ」を知ることが何よりも大切であり、そうした「学び」の体験を通して、社会のなかでの自己実現と、その結果としての社会貢献が可能になると考えます。その実現へ向け、本学園は「自己肯定・協調性・探究」を教育の基本方針とします。

教職員が園児・児童・生徒・学生の声に耳を傾け、ともに語り合うことにより、自分の考えを大切にする意識(自己肯定)と、他者の存在や意見を尊重する姿勢(協調性)を育て、それを踏まえて、課題に取り組む「探究」活動を「学び合い」として経験すること。これが永続的な「学び」の基盤となり、社会で自分を生かすことのできる人を育てることになると考えるからです。

1 自己肯定

「自分の興味・好奇心・発想はかけがえのないもの」という自覚を育てる

2 協調性

「他人^{ひと}の意見や存在を大切にし、友人と対等に交わる」経験を積む

3 探究

「自分のアイデアを積極的に発表し、他人^{ひと}の意見を聞きながらその可能性を探究する」力を身に着ける

III 学園の未来へ向けた展望（ビジョン）

―積み重ねた歴史を未来へつなぐために―

本学は創設以来の使命を今後も担い続けるため、そして社会で力を発揮できる女性を育て、社会の持続的な発展に寄与するため、次の四つの課題に挑むことで学園の未来を展望します。

1 学園の教育カリキュラムの精選と充実

学校教育に対する社会的要求の変化に対応し、これまでの慣例にとらわれず、本来に必要な教育カリキュラムを構築し、園児・児童・生徒・学生の言葉と行動にしっかりと向き合うことで、「学ぶ者」が主体の教育を実現します。

2 地域社会との交流による「学びの場」の構築

学校のなかだけの「閉ざされた学び」ではなく、「社会に開かれた学び」につなげるため、「生活科」「総合的学習」「探究型授業」「アクティブラーニング」「PBL (Project Based Learning)」等に積極的に取り組み、地域社会との交流を深め、地域の学習拠点としての存在価値を高めます。

3 学園内の交流・連携の深化

総合学園としての特色を生かし、特に隣接する各部（幼稚園と小学部、小学部と中学部など）での交流・連携を深め、学園全体が教育目標を共有します。

4 少子化時代における安定的な経営基盤の確立

学園における様々な特色ある取り組みが広く社会に認識されるよう、広報力の強化に努め、学園の募集力を高めることで、収入の多くを占める学生生徒等納付金の安定的な確保につなげます。また、少子化時代における学園の適正規模を見極め、合理的・効率的な運営を行うとともに、学園の使命を今後とも果たし続けるため、生涯学

習、リカレント教育に積極的に取り組みます。

IV ビジョンの実現に向けた学園の価値観（バリュー）

学園の使命（ミッション）・教育方針（ポリシー）をふまえ、展望（ビジョン）を具現化していく行動指針として、学園全体が共有する「価値観（バリュー）」を提示します。

1 自己肯定と自立

- ・自分の興味や好奇心、発想を尊重し、自分自身を肯定する力を育む。

2 協調と共感

- ・他者の意見や存在を尊重し、対等な関係性の中で共に学び合う姿勢を重視する。

3 探究と創造

- ・自分のアイデアを積極的に発表し、他者の意見を取り入れながら可能性を探る。

4 社会貢献と持続性

- ・地域社会との交流や連携を深め、持続可能な社会の実現に貢献する。

V 学園スローガン 「見つめる人になる。 見つける人になる。」

これらの価値観を集約したものとして、“しなやかな発想力、豊かな包容力を身につけながら、「未来を、世の中を見つめ、道を、答えを見つける人になる」” の意が込められた「見つめる人になる。見つける人になる。」を、引き続き学園全体のスローガンとします。